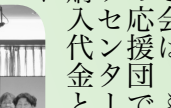


ふるさとを想う集い

3月24日、関東在住の町出身者で組織される東京かみのくに会（倉谷久会長）の総会・懇親会が東京都内のホテルで行われ、会員のほか、本町からも町長・議長はじめ町職員など約90名が参加しました。開場では、倉谷会長や町長から町や会のお互いに関する近況が報告され、また、総会終了後の懇親会では、本町特産品の販売や歌手活動をを行う会員による歌唱などが披露されたほか、南国の衣装に身を包んだフラダンスなどの催しもあり、さらに各々のテーブルでは、久しぶりに会う同郷の友人らが昔話に花を咲かせ、旧交を温めていました。

ふるさと会は、ふるさとである上ノ国町の応援団でもあり、今年はスポーツセンターに設置されるAEDの購入代金として、30万円を寄附されています。



上ノ国農業のはじまり
アスハラガス出荷迫る

3月26日、木ノ子地区で農業を営む山口公仁さんのビニールハウスで本町農業の始まりを告げる春野菜のアスパラガスが芽を出しはじめました。

アスパラガスは、毎年3月中旬から末頃にかけて出荷が始まりますが、今年は気温が低いことから、例年よりも若干遅れ気味なものの、順調に生育しているとのことでした。

山口さんにお話を伺うと、『気温は低いけど、あれだけ多かった雪も溶けて一気に農業の季節が来たと感じます。これからは忙しくなります。』と話し、アスパラガスに始まる農業シーズンに向けて、意気込みを話していました。



エビ漁好調！最盛期を迎える

1月から行われている本町のエビ漁が好調となっています。シマエビやボタンエビ、ガサエビなどが漁獲される本町のエビ漁ですが、今年は漁獲量こそ昨年同時期より若干少ない6・2トであるものの、昨年以上の単価で取引されていることから、全体的に好調に推移しているとのことでした。また、水揚げされたエビ、特にガサエビは本町の特産品として、リニユーアルされた道の駅もんじゅのメニューでも多数活用されていることから、町内での需要も増すこととなります。

漁は5月頃まで続けられることから、今後も好漁が続くことが期待されます。



あなたは気づきましたか？
上ノ国の看板が…

3月19日、町外から上ノ国町を訪れる方々を歓迎するまちの看板が新しくなりました。

看板に刻まれた『北海道和人文化発祥の地』の文字は、かつて本町の勝山館を本拠地とした武将『武田信廣』が戦乱を平定し、北海道に和人文化が根付く基盤を作ったことに由来しています。

今年は北海道と名付けられて150周年を迎えましたが、『北海道和人文化発祥の地』という言葉には、それよりもはるかに古い時代から私達の祖先はこの地を支えてきたという背景が含まれています。

今の北海道を形作る大きなターニングポイントとなった上ノ国、北海道内でも数少ない中世の歴史を持つ町として、訪れる方々にPRするとともに、これまで地域を支えてきた先人と故郷に誇りを持ち、受け継いだバトンを後世に繋いでいきたいと思います。

